

実施事例

品川区立戸越台中学校で、医学生ががんの基礎知識と予防の重要性について授業を行いました。講義では、がんリスクと予防策、がん検診やHPVワクチンの重要性について伝え、その後がん経験者が体験談を共有しました。
また、生活習慣の改善方法をロールプレイを通して考え、生徒たちは積極的に参加。自身の健康意識を見直すきっかけとなりました。

下記より詳細をご覧ください。
<https://gankyouiku.org/case/490/>



代表理事プロフィール

代表理事
中川 恵一
なかがわ けいいち



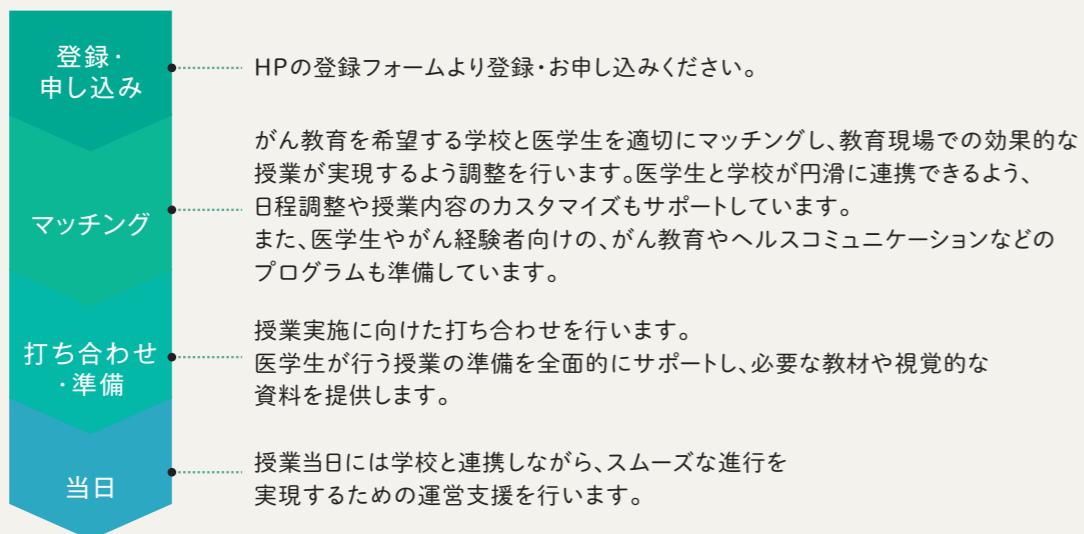
東京大学大学院医学系研究科 特任教授。放射線治療医として診療に従事する傍ら、がん教育や予防啓発活動に尽力。東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部長を兼任し、がん患者支援にも携わる。厚生労働省がん検診検討委員会構成員を務め、「がん対策推進企業アクション」議長として企業と連携したがん対策を推進。福島第一原発事故後は、被災地支援にも積極的に取り組んでいる。

代表理事
南谷 優成
みなみに まさなり



東京大学医学部医学科を卒業後、同大学医学部附属病院 放射線科 助教として勤務。放射線治療専門医、第1種放射線取扱主任者の資格を持ち、診療放射線管理室副室長も務める。また、嘱託産業医としての経験も持ち、がんに関する社会課題（健康教育、がん検診、ヘルスリテラシーなど）の研究を行っている。さらに、がん教育などに積極的に取り組み、各地の学校でがん教育の授業を実施している。

プログラム実施までの具体的な流れ



非営利型一般社団法人 医学生による がん教育推進協会

文部科学省後援
「学校での医学生によるがん教育授業」



非営利型一般社団法人 医学生によるがん教育推進協会

〒107-0052
東京都港区赤坂4丁目8番19号
赤坂フロントタウン3階

Tel 03-5050-4953
E-mail office@gankyouiku.org
HP <https://gankyouiku.org/>



一般社団法人 医学生によるがん教育推進協会について

本法人は、「医学生と学校が協力し、がん予防の知識を次世代に届ける」という理念のもと活動しており、医療を志す医学生の専門知識を活かして、子どもたちが健康的な生活を送る力を育む教育プログラムを提供しています。また、教育を通じて、医学生の地域貢献意識も育みます。学校、地域、そして医療の未来をつなぐ架け橋として、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指します。



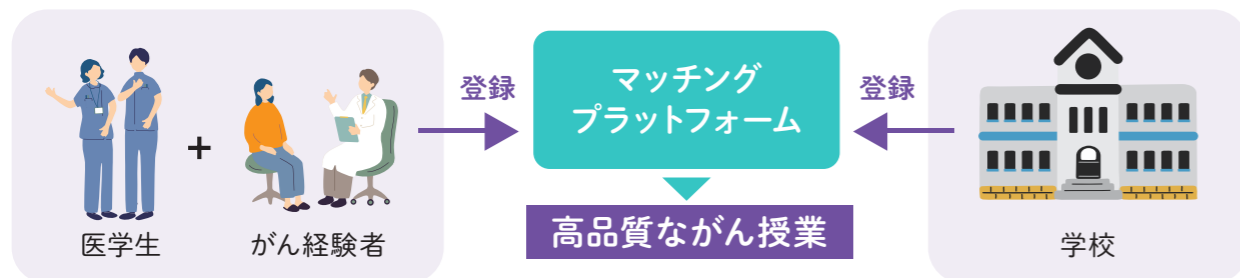
設立の背景

近年、小・中・高等学校において「がん教育」が必修化されましたが、外部講師の選定や経費の問題により、その活用は十分に進んでいません。2021年時点で、外部講師を活用した授業の実施率はわずか8.4%にとどまっています。

一方、第四期がん対策推進基本計画では、外部講師の活用について明記されており、この課題の解決に向けて当法人を設立しました。

学校での医学生による がん教育授業(文部科学省後援)の概要

講師を活用したい全国の小・中・高等学校と医学生+がん経験者を無料でマッチングするプラットフォームを構築・運営し、がん授業の実施を拡大することで、社会全体のがんリテラシー向上を目指します。医学生には事前研修や資料の添削、プレゼンのアドバイス等を行うことで、授業の品質を高水準で担保します。



医学生が、がん経験者と共に、無料で、がん教育を行う



研究結果

医師が単独でがん授業を行った場合と、医学生が主体となり医師とともに行った場合を比較したところ、子どもの**がんリテラシー向上に大きな差は見られない**ことが明らかになりました。

授業前後の生徒のがんに関するリテラシー

